

最近日本のテレビでスリランカのことをよく取り上げられているが、そのような番組の中で必ず紹介されるのが故ジャヤワルダナ元大統領(1906～1996)と日本との関わりである。

ジャヤワルダナ元大統領と言っても日本ではあまり知る人は多くないが、しかし、第二次世界大戦の戦後処理に関するサンフランシスコ講和会議で唯一日本を弁護し、日本に対する賠償を放棄したスリランカの政治家として忘れることが出来ない人物である。

スリランカがなぜ日本から賠償を求めるのか、不思議に思われたかもしれない。1942年(昭和17年)日本軍が英国領であったセイロン(現在のスリランカ)のコロンボとトリンコマリーを空爆した。そのためにセイロンは講和会議に出席していたわけである。

1951年(昭和26年)に開催された日本の戦争責任を問うサンフランシスコ講和会議で、ソ連(当時)を中心とした日本4分割案を断念させてくれたのがセイロンの第二代大統領で(後の1978年にスリランカの初代大統領になった)ジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ氏であった。

彼はセイロン代表として(当時蔵相)会議に出席し、対

日賠償請求権を放棄することを明らかにし、「憎悪は憎悪によって止むことはなく、愛によって止む」と

仏陀の言葉を引用しながら、日本を国際社会の一員として受け入れるように訴える演説をした。

日本4分割案では北海道と東北をソ連、関東と中部の一部を米国、四国を中華民国、中国と九州を英国がそれぞれ占領地とし、東京は米国、英国、中華民国、ソ連が共同管理をしようということが計画されていた。

ジャヤワルダナ氏がサンフランシスコ講和会議で行った演説は、日本に厳しい制裁を求めていた戦勝国を動かし、日本が再び独立国になるように導き、今日の高度経済成長につながっていった。

彼が行った演説とは一体どんなものだったのだろうか。15分に及ぶ演説が残されているが、その一部をかいつまんで平易な言葉にして紹介したい。

「何故アジアの諸国民は、日本は自由であるべきだと切望するのでしょうか。それは、我々と日本は長年のかかわり合いがあり、また、アジア諸国の中で、日本だけが強力で自由であり、日本を保護者であると同時に友人として仰いでいた時に、我々は日本に対して高い尊敬の念を



鎌倉高德院にある記念碑



セイロン(現在のスリランカ)を爆撃した日本軍を英国軍が撃ち落したが、彼らを悼む慰霊碑がコロンボ・カナッテ墓地にある。



故ジャヤワルダナ元大統領
(ウィキペディアより転載)

抱いていたため
であります。

私は、アジア
のための共存共
栄のローガンが、
ビルマ、インド
およびインドネ
シアの諸国民に
アピールし、ア
ジア諸国の指導
者達が此の理念

によって、彼らの愛する国々が独立できるという希望を持つことが出来、日本の仲間入りをしたという事実を思い起こします」

「セイロンは、幸いにも、日本による侵略を受けませんでした。空襲や東南アジア軍の指揮下の膨大な軍隊の駐屯、及び、我々が連合軍に供給する天然ゴムの唯一の生産国だった時、セイロンの主要産物の一つであるゴムが、日本による枯渇的な樹液採取で蒙った損害に対して、セイロンはその賠償を日本に請求する資格があります」

「しかし、我国はその賠償を請求しようとは思いません。何故ならば我々は、アジアの無数の人々を高貴な存在ならしめた、あの偉大な教師の言葉すなわち『憎悪は憎悪によって消え去るものではなく、ただ愛によってのみ消え去るものである』という言葉に信ずるからであります。それは偉大な教師であり、仏教の創始者である仏陀のメッセージ

であります」

「故に、日本がこれまで通り自由であり、日本が復興に向かうことに何ら制限を課さず、日本が外部からの侵略に対して、自らの軍事的防衛力を組織するようにすること、そして自国を守る力を持てるようになるまでは、日本防衛のために友好諸国家の援助を要請すると共に、日本経済復興を損なういかなる賠償も、日本から取り立てないことを宣言します」

時の吉田首相はこれに対してジャヤワルダナ氏に感謝の手紙を送っている。そして、ジャヤワルダナ氏は1979年（昭和54）に国賓として来日し、昭和天皇に謁見した。ジャヤワルダナ氏は1996年11月1日90歳で永眠した。彼の遺志に基づいて彼の死後の角膜が臓器提供された。右目はスリランカ人に、もう一方の左目は日本人に提供された。「(死後も)スリランカと日本の未来を見たい」からだったと言われている。

ジャヤワルダナ演説がなければ、日本はどうなっていたか。今日のような日本はなかったはずである。日本はその期待に応えて、敗戦後の復興から見事に経済的な発展を遂げ、戦後68年間一貫して平和国家として世界に貢献してきた。

(文中の故ジャヤワルダナ元大統領の演説は、
http://hinode.8718.jp/san_francisco_convention_sri_lanka.html
による)

スリランカ・ケラニヤ便りは今回で終わりたいと思う。1年間お読みいただき、ありがとうございました。